



TOPIC

世界初の日本人学校 高等部が上海に開校

9大学がコンソーシアムを組んで支援。
グローバル人材育成機関としての期待が高まる

上海日本人学校高等部開校式

4月16日、日本人学校として世界で初めての高等部が中国・上海に開校した。世界には、約90の日本人学校があるが、すべて義務教育である小中学校であり、高等部の設置は初めてのことである。なぜ、上海に高等部が必要だったのか、なぜ大学が支援しているのか、世界初の試みをレポートする。

日本人駐在員数が世界一

高等部開設には、上海へ進出する日系企業の増加が背景となっている。高等部の設置主体となった上海日本商工クラブによると、2010年末の日系企業数は8155社となり、09年末の約7600社から500社以上増加しているとのこと。日系企業の進出に伴い、長期滞在者数(海外在留邦人数統計2009年10月)も、ニューヨークを抜いて現在世界一となっている。そうしたことから、上海の日本人学校(虹橋・浦東)には、中学校まで約2700人の生徒が学んでいる。その一方、高等部がなかったために大学進学への大きな不安があり、高校受験を機に家族だけ帰国することが多くなっていた。英・米・独・仏・韓・シンガポールなどは、上海に高等部をもっているため、多くの日系企業から教育環境の充実を望む声が高まっていた。

9大学が支援

この高等部を支える大きな役割を担っているのが「上海高等部協力大

学会議」だ。表にある9大学がコンソーシアムを組んで設置準備段階から高等部を支援している。支援の内容は、大学入試・指定校推薦枠を設置するほか、各大学の教授等の派遣による講演会や特別講座が開催される予定だ。上海日本商工クラブ会員企業へのインターンシップや講演なども含め、英語・中国語や異文化に触れる国際都市上海ならではのユニークなカリキュラムが用意されている。

また、一般的に日本人学校の教諭は日本の文科省から派遣されるが、新設の高等部の教諭は独自採用となっており、その意欲の高さを感じられる。

世界への橋頭堡となるか

なぜ、大学が日本人学校高等部を支援するのか、上海日本人学校の小暮剛一運営委員長にうかがった。目

<上海高等部協力大学会議>

関西学院大学	法政大学
芝浦工業大学	明治学院大学
上智大学	明治大学
東京理科大学	立教大学
同志社大学	

的の一つは、発展著しい上海において、経済活動と教育が一体となって、グローバル化を推進していくために、



小暮剛一 上海日本人学校
運営委員長

大学連合で支援を進めていくとのこと。現在、「上海高等部協力大学会議」に参加している大学は9大学で、すべてが関東・関西である。しかし、上海駐在後の帰国先は、関東・関西とは限らない。そのため、今後中部地区や、九州地区などの他の地域の大学も加わり、その支援の輪を広げていくとのことである。

もう一つは、新しい形での大学コンソーシアムへのチャレンジである。大学が主体的にコンソーシアムを組んで、グローバルな課題に取り組む。そのスタートが上海とのこと。大学の国際化が課題となるなかで、人材育成や情報の獲得、日本の大学の現地におけるブランド力向上など、これからの大学コンソーシアムのあり方の橋頭堡となるかが注目される。(取材・文/小林 浩)